



副議長  
及川 清孝 (中田)



議長  
庄子 喜一 (米山)



総務企画委員長  
及川 昌憲 (南方)



議会運営委員長  
浅田 修 (米山)



建設水道委員長  
沼倉 利光 (中田)



産業経済委員長  
田口 久義 (南方)



教育民生委員長  
阿部 東一郎 (津山)

6月13日に開会された市議会6月定例会において、千葉清昭議長と武田節夫副議長から、辞職願が提出されました。これに伴い、議会で無記名投票が行われた結果、新しい議長に庄子喜一氏、副議長に及川清孝氏が選出されました。任期は前議長、副議長の残任期間で、平成21年4月28日までとなっています。また、任期満了に伴い各常任委員会委員長が決まりました(敬称略)。

## 市議会 6月定例会

# 新しい市議会議長 副議長を選出



真新しい青色の活動服姿で出席した団員

4月に発足した市消防団の結団式が5月27日、登米祝祭劇場で開催されました。合併後の2年間は、9町域ごとの消防団が連合消防団として組織されていましたが、市の消防団として統合したこ

## 新しい団旗に 地域防災誓う

### 市消防団結団式



布施市長から主藤団長へ消防団旗が手渡されました

によって各団が支団となり、団員総数は1,667人。式には団員約580人が、揃いの真新しい活動服姿で出席しました。布施市長は「災害から市民の生命と財産を守るためには、公助はもちろん自助・共助が大切になります。一致団結して頑張ってもらいたい」とあいさつ。主藤敏寛団長(米山)が「新しい団旗のもと、新たな歴史が始まりました。消防人として誇りを持ち、市民皆さんが安全・安心して暮らせるようにまい進したい」と訓示を述べました。式典では、アトラクションとして、横山火伏獅子舞保存会(津山町)による、火伏せの獅子舞が披露されました。

# 『2007みやぎふるさとCM大賞』 出品作品募集!

あなたの作品がテレビで放映されるかも!?

東日本放送の主催で開催されている「みやぎふるさとCM大賞」。今年は広く市民皆さんからの作品を募集したいと思います。皆さんの応募をお待ちしています。

【募集点数】 9点 ※応募多数の場合は、地域バランスや応募内容により選考します。

【作品の内容】 観光、物産、伝統、人物、歴史、自然など、登米市の自慢や魅力を表現した未発表の作品

【作品タイトル】 25文字以内

【作品秒数】 30秒

【作品企画】 家庭用ビデオ (VHS、DV) または放送業務用ビデオ (βカム、D2)

※そのほか、制作に当たっての注意事項は、応募の申



し込みの際にお渡します。

【応募資格】 市内に在住または勤務する人や団体で、映像制作を職業としていない人ならどなたでも応募できます。

【著作権など】 応募作品の著作権は市に帰属します。また、放送などに関する著作権は東日本放送に帰属します。代表作品に選ばれた人には、12月6日(木)にイズミティ21(仙台市)で開催される「発表審査会」に出席していただきます。

【応募方法】 7月31日(火)までに、①氏名(団体の場合は団体名と代表者氏名)、②住所、③電話番号、④職業または学校名(学年)、⑤作品タイトル(仮称可)、⑥作品の大きな内容を任意の様式に記入の上、直接またはメールで連絡してください。

【応募期限】 作品は、10月1日(月)までに総務部市長公室広報広聴係(市役所迫庁舎2階)に提出してください。

【制作費など】 制作、編集・加工にかかる費用はすべて応募者負担となります。

【申し込み・問い合わせ】 総務部市長公室 広報広聴係  
☎ 0220 (22) 2090 ✉ koho@city.tome.miyagi.jp  
※昨年入賞した全作品は、東日本放送のホームページで見ることができます。

## 災害時に対応できる救急医療器材を完備

上杉皮膚科医院(迫町佐沼字江合二丁目12番地12)の上杉恭弘院長が、このたび大地震などの災害時に地域住民の命を守るための災害対応用救急医療器材を備えました。

医療器材は、自動体外式除細動器(AED)、酸素ボンベ、人工呼吸器、手動式人口蘇生器、ベッド、簡易トイレ、鎮痛剤などの医薬品、発電機など。専用の備蓄倉庫に、新町区の約400世帯の住民に対応できる数量を保管し、災害への備えを万全にしました。

上杉院長は、2004年12月26日に発生したスマトラ島沖地震の直後、NGO活動の一環としてタイのプーケット島で復興支援活動に従事。医薬品がないため、助かる命がみすみす失われていく現状を目の当たりにして、災害時に地域住民の命を守るためには、日ごろからの備えが必要と考え、災害対応用の救急医療器材を完備しました。

「例えば、開業医がそれぞれ医療器材を準備すれば、隣接する地域住民の命を助けることができる。各家庭では、最低でも非常用飲料水を一人当たり3日程度準備していただきたい」と話していました。



病院裏の自宅敷地内に備蓄倉庫を建設し、新町区の約400世帯の住民に対応できる、救急医療器材をそろえた上杉皮膚科医院の上杉院長